

行動科学専攻分野

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講学期	曜日	講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
社会行動科学特論Ⅰ	多文化共生論	2	永吉 希久子	集中(1学期)			社会行動科学特論Ⅰ
社会行動科学特論Ⅱ	政治心理学	2	秦 正樹	集中(1学期)			社会行動科学特論Ⅱ
数理行動科学研究演習Ⅰ	社会秩序の自己組織化と エージェント・ベースト・モ デル	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	1学期	月	5	数理行動科学研究演習 Ⅰ
数理行動科学研究演習Ⅱ	エージェント・ベースト・モ デルによる自己組織性の 解明	2	佐藤 嘉倫 瀧川 裕貴	2学期	月	5	数理行動科学研究演習 Ⅱ
数理行動科学研究演習Ⅲ	ベイズアプローチによる 社会学の理論と実証	2	浜田 宏	1学期	水	2	数理行動科学研究演習 Ⅲ
数理行動科学研究演習Ⅳ	社会科学のためのエコ ノメトリクス	2	浜田 宏	2学期	水	2	数理行動科学研究演習 Ⅳ
計量行動科学研究演習Ⅰ	「家族構造と子ども」の 計量分析	2	木村 邦博	1学期	火	2	計量行動科学研究演習 Ⅰ
計量行動科学研究演習Ⅱ	社会調査法への認知 科学的アプローチ	2	木村 邦博	2学期	火	2	計量行動科学研究演習 Ⅱ
計量行動科学研究演習Ⅲ	偏見の社会学	2	小川 和孝	1学期	金	2	計量行動科学研究演習 Ⅲ
計量行動科学研究演習Ⅳ	移動と階層	2	小川 和孝	2学期	金	2	計量行動科学研究演習 Ⅳ

科目名：社会行動科学特論 I / Social Behavioral Science (Advanced Lecture) I

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 (1 学期), 単位数：2

担当教員：永吉 希久子 (非常勤講師)

講義コード：LM98835, 科目ナンバリング：LIH-OS0601J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：社会行動科学特論 I】

1. 授業題目：

多文化共生論

2. Course Title (授業題目)：

Multicultural Society and Its Problems

3. 授業の目的と概要：

目的：日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

概要：日本における外国人住民の生活状況について、様々な社会制度との関わりを検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

In this course, students will understand current conditions of 'multicultural coexistence' in Japan and impacts of institutions on the conditions.

5. 学習の到達目標：

日本における多文化共生の実態と社会制度の影響を理解し、説明できるようになる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

This course is designed to help students explain how institutions affect current conditions of 'multicultural coexistence' in Japan.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

国境を越えた人の移動は、そうした人々を受け入れた社会に影響を与える。その一方で、社会のあり方によって、国境を越えて移動してきた人の生活状況は異なる。この講義では、多文化社会における問題を把握し、解決策を考えるために、日本における移民の生活状況 (仕事や学校、地域生活、家庭生活など) と、それに対する社会制度の影響について理解することを目的としている。

授業は講義形式で行うが、映像資料の利用や、受講者間でのディスカッションを通して、授業内容を自分にひきつけつつ考える時間を設ける。各回の具体的な内容は、「授業予定」に記載の通り。

授業計画

第1回：イントロダクション

第2回：日本における外国人受け入れの歴史

第3回：国民観の国際比較と国籍・移民制度

第4回：低技能労働者としての外国人

第5回：高技能労働者としての外国人

第6回：ケアワーカーとしての外国人

第7回：難民

第8回：国際結婚

第9回：外国人の子どもの教育①

第10回：外国人の子どもの教育②

第11回：外国人と社会保障

第12回：外国人と社会保障

第13回：諸外国における外国人受け入れ制度

第14回：地域における外国人住民との関係

第15回：まとめ

8. 成績評価方法：

授業への積極的な参加 (40%)、最終レポート (60%)

9. 教科書および参考書：

教科書は指定しない。

参考書は授業の中で適宜紹介する。

10. 授業時間外学習：

外国人の受け入れや在日外国人の生活状況に関連するニュースに関心を持ち、情報を集めておくことが期待される。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：社会行動科学特論Ⅱ／ Social Behavioral Science(Advanced Lecture)Ⅱ

曜日・講時：後期集中 その他 連講

セメスター：集中（1学期）、単位数：2

担当教員：秦 正樹（非常勤講師）

講義コード：LM98836、科目ナンバリング：LIH-OS0602J、使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：社会行動科学特論Ⅱ】

1. 授業題目：

政治心理学

2. Course Title (授業題目)：

Political Psychology

3. 授業の目的と概要：

本講義では、政治行動論や社会心理学との比較の中での政治心理学の特徴を説明した上で、その古典的研究における知見から最新の研究動向まで説明していく。具体的には、政党帰属意識、政治的洗練性（政治知識・政治関心）、メディア効果論（新聞・テレビ・SNS）、政治文化（政治的社会化・脱物質主義・ソーシャルキャピタル）、有権者の自律性（合理的選択論・ポピュリズム）といったテーマをとりあげ、そこでのメカニズムを説明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course provides the basic theories of political psychology, comparing with political behavior and social psychology. We focus on party identification, political sophistication (e.g. political knowledge, political interest), media politics (e.g. TV-news, Internet), political culture (e.g. political socialization, post-materialism, social capital), voter rationality (rational choice and populism).

5. 学習の到達目標：

本講義の目的は、政治心理学の理論や、知見、研究例についてなじみ理解を深めることにある。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

The purpose of this course is to help students better understand political psychology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 政治心理学の特徴：合理的選択論との比較の中で
2. 政治心理学の方法論：因果推論とサーベイ実験
3. 政治文化（1）：民主制と政治的社会化
4. 政治文化（2）：価値観変動とソーシャル・キャピタル
5. 投票行動（1）：ダウンズモデルと政党システム
6. 投票行動（2）：コロンビアモデル～ミシガンモデルまで
7. 投票行動（3）：業績評価投票～ニューロ・ポリティクスまで
8. 政治的洗練性（1）：ヒューリスティックとしてのイデオロギー
9. 政治的洗練性（2）：政治的知識・関心・有効性間感覚に関する議論
10. 政治的洗練性（3）：「新しい X」（ミリュー・強化学習・記憶）の発見
11. 政治とメディア（1）：限定効果論～新しい強力効果論まで
12. 政治とメディア（2）：WEB(SNS)の効果に関する研究動向
13. 有権者の自律性（1）：維新の会は「ポピュリスト政党」なのか？
14. 有権者の自律性（2）：外交・安保（ハードイシュー）と「ネット右翼（ネトウヨ）」
15. まとめ：政治心理学は何を明らかにしていないのか？

8. 成績評価方法：

期末レポートのみで評価します。課題は、授業で紹介した理論を用いて、実際にあった政治現象を理論的・実証的に分析することを求めます。詳細は授業中にお知らせします。

9. 教科書および参考書：

授業ごとにレジュメを配布します。各自の関心に応じて、下記の参考書を紹介いたします。

1. ドナルド・R・キンダー（加藤秀治郎・加藤祐子訳）。2004.『世論の社会心理学：政治領域における意見と行動』世界思想社。
2. 山田真裕・飯田健。2009.『投票行動研究のフロンティア』おうふう。
3. 善教将大。2018.『維新支持の分析：ポピュリズムか、有権者の合理性か』有斐閣。
4. 今井耕介（粕谷祐子・原田勝孝・久保浩樹訳）。2018.『社会科学のためのデータ分析入門』岩波書店。

10. 授業時間外学習：

上記の本や授業中に紹介する論文を各自で読んで、政治心理学のメカニズム理解の深化に努めてください。また、twitter など、SNS で政治問題が実際にどのようにフレーミングされているかについても関心を持っておきましょう。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicates the practical business

12. その他：

科目名：数理行動科学研究演習 I / Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 月曜日 5 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴（教授、准教授）

講義コード：LM11506， 科目ナンバリング：LIH-OS0603J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：数理行動科学研究演習 I 】

1. 授業題目：

社会秩序の自己組織化とエージェント・ベースト・モデル

2. Course Title (授業題目)：

Self-organization of Social Order and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

人々が自発的に秩序（協力行動など）を生み出している社会現象がある。本演習では、いくつかの論文を輪読して、これらの現象を分析する方法を理解する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students will read some papers on self-organization of social order to understand how to study such phenomena.

5. 学習の到達目標：

進化ゲーム理論やエージェント・ベースト・モデルが社会学にいかなる貢献をするのか理解する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will understand how evolutionary game theory and agent-based models contribute to sociology.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション (1)
2. イントロダクション (2)
3. 社会秩序概念の検討 (1)
4. 社会秩序概念の検討 (2)
5. 自己組織性の理論的検討 (1)
6. 自己組織性の理論的検討 (2)
7. 自己組織性の経験的分析 (1)
8. 自己組織性の経験的分析 (2)
9. 進化ゲーム理論 (1)
10. 進化ゲーム理論 (2)
11. 計算社会学入門 (1)
12. 計算社会学入門 (2)
13. エージェント・ベースト・モデル (1)
14. エージェント・ベースト・モデル (2)
15. ここまで演習で取り上げたトピックを再検討し、エージェント・ベースト・モデルによる社会秩序の自己組織メカニズムの分析について探究する。

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

10. 授業時間外学習：

演習中の議論に積極的に参加できるように、事前に関連文献に目を通すなど予習をしておくこと。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：月曜日午後 12 時—午後 1 時（事前に予約すること）

後期の数理行動科学研究演習 II と併せて参加すること

科目名：数理行動科学研究演習Ⅱ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 月曜日 5 講時

semester：2 学期， 単位数：2

担当教員：佐藤 嘉倫・瀧川 裕貴（教授、准教授）

講義コード：LM21505， 科目ナンバリング：LIH-OS0604J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：数理行動科学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

エージェント・ベースト・モデルによる自己組織性の解明

2. Course Title (授業題目)：

Analysis of Self-organization and Agent-based Models

3. 授業の目的と概要：

エージェント・ベースト・モデルの手法を修得し、自分で自己組織性を解明する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

Students are expected to master methods of agent-based modeling and study the process of self-organization by themselves.

5. 学習の到達目標：

前期の議論を踏まえて、実際にエージェント・ベースト・モデルを構築して、社会の自己組織性を自分で解明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students will be able to build agent-based models and study self-organization by themselves.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1. イントロダクション
2. プログラミング入門 (1)
3. プログラミング入門 (2)
4. プログラミング入門 (3)
5. 研究テーマの決定とグループ分け
6. グループ別の進行状況報告と検討 (1)
7. グループ別の進行状況報告と検討 (2)
8. グループ別の進行状況報告と検討 (3)
9. グループ別の進行状況報告と検討 (4)
10. グループ別の進行状況報告と検討 (5)
11. グループ別の進行状況報告と検討 (6)
12. グループ別の進行状況報告と検討 (7)
13. グループ別の進行状況報告と検討 (8)
14. グループ別の進行状況報告と検討 (9)
15. 各グループによる最終的な研究報告

8. 成績評価方法：

() 筆記試験 [%]・(○) リポート [50%]・(○) 出席 [50%]

9. 教科書および参考書：

開講時に指示する。

10. 授業時間外学習：

グループに分かれてプログラミングを行うので、積極的にグループワークに参加すること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

オフィスアワー：月曜日午後 12 時～午後 1 時（事前に予約すること）

前期の数理行動科学研究演習Ⅰと併せて参加すること

科目名：数理行動科学研究演習Ⅲ／ Mathematical Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 水曜日 2講時

semester：1学期， 単位数：2

担当教員：浜田 宏（教授）

講義コード：LM13211， 科目ナンバリング：LIH-OS0605J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：数理行動科学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

ベイズアプローチによる社会学の理論と実証

2. Course Title (授業題目)：

Sociological Theory and Bayesian Statistics

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

1. To learn the method that explain an interesting social phenomenon with mathematical models and statistical analysis
2. To learn how to formalize an interesting social phenomenon through this course. To train the ability that specifies the problem from good samples.

5. 学習の到達目標：

Stanを使ったベイズ統計の分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)

- 1.To learn Bayesian statistical analysis by Stan and R.
- 2.To learn mathematical formalization and modeling
- 3.To train the ability that specify and abstract the essence of social phenomenon

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション モデルとはなにか
2. 真の分布，確率モデル，データ
3. 最尤推定
4. ベイズ推定
5. MCMC
6. 確率分布
7. 汎化誤差，AIC，WAIC，予測分布
8. Stanによる分析：回帰
9. Stanによる分析：モデル式の書き方
10. Stanによる分析：階層モデル
11. Stanによる分析：所得分布分布生成モデル
12. Stanによる分析：観測モデルとの接合
13. Stanによる分析：時間割引モデル
14. Stanによる分析：教育達成の階層間格差
15. まとめと総括

8. 成績評価方法：

レポート [50%]，出席 [30%]，その他（授業時間内での報告や質問と、報告・レポートに至るまでの過程） [20%]

9. 教科書および参考書：

教科書：浜田宏・石田淳・清水裕士，2019『社会科学のためのベイズ統計モデリング』朝倉書店。
参考書：久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデリング入門』岩波書店。
松浦健太郎，2016，『StanとRで統計モデリング』共立出版
Gelman et al. 2013, Bayesian Data Analysis, Third Edition, CRC Press.
その他の参考書は適宜指示する

10. 授業時間外学習：

予習に指定した範囲を事前に読んでくること。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

本演習ではRとStanによる実装例を紹介するので、実行環境を整えたノートPCを持参することが望ましい。

科目名：数理行動科学研究演習Ⅳ／ Mathematical Behavioral Science (Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 水曜日 2 講時

セメスター：2 学期， 単位数：2

担当教員：浜田 宏（教授）

講義コード：LM23211， 科目ナンバリング：LIH-OS0606J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：数理行動科学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

社会科学のためのエコノメトリクス

2. Course Title (授業題目)：

Econometrics for Social Science

3. 授業の目的と概要：

- 1) 社会現象を数理モデルとデータを使って説明する方法の基礎を学ぶ。
- 2) 興味深い問題をどうやって定式化するかを演習を通して学ぶ。見本となる研究を参考にして「問題を構成する力」の基礎を涵養する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

5. 学習の到達目標：

データの分析手法を習得する
現象の数学的表現を習得する
日常生活の中に潜む数学的構造を見抜く観察力を身につける

6. Learning Goals(学修の到達目標)

7. 授業の内容・方法と進度予定：

テキストを輪読しながら数学的詳細をフォローする。計算が必須なので必ず予習すること。

1. イントロダクション
2. 単回帰
3. OLS 推定量
4. 不均一分散
5. 検定
6. 欠落変数バイアス
7. 線形射影
8. 操作変数法
9. 識別
10. 反実仮想
11. 回帰不連続デザイン
12. 行列と漸近理論
13. 漸近効率性
14. GLS 推定量
15. TSLS 推定量，まとめ

8. 成績評価方法：

試験 [30%]，出席 [20%]，宿題 [50%]

9. 教科書および参考書：

教科書：鹿野繁樹，2015，『新しい計量経済学』日本評論社
参考書：末石直也，2015，『計量経済学』日本評論社
久保拓哉，2012，『データ解析のための統計モデルリング入門』岩波書店。

10. 授業時間外学習：

毎週，指定された予習範囲を事前に読みコメントペーパーを準備する
指定された予習範囲の計算や証明を自分で確かめる

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

確率論，微分積分，線形代数の授業を事前に履修していることが望ましい。

科目名：計量行動科学研究演習 I / Quantitative Behavioral Science (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

semester：1 学期， 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LM12212， 科目ナンバリング：LIH-OS0607J， 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：計量行動科学研究演習 I】

1. 授業題目：

「家族構造と子ども」の計量分析

2. Course Title (授業題目)：

Quantitative Analysis of Family Structure and Children

3. 授業の目的と概要：

- (1) 「家族構造と子ども」に関する計量行動科学研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。
- (2) 学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。
- (3) 多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

The purpose of this seminar is threefold:

- (1) to review the studies on "the family structure and children,"
- (2) to improve students' ability to read academic English texts, and
- (3) to deepen students' understanding of multivariate methods in behavioral science.

5. 学習の到達目標：

- (1) 「家族構造と子ども」に関する行動科学研究の動向を把握し、今後の展開を展望する。
- (2) 学術的な英語文献を読む力をつけるとともに、行動科学的な思考力を養う。
- (3) 多変量解析を用いた計量的研究を理解し、自分でも実施する力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

- (1) To understand the current state of the studies on "the family structure and children."
- (2) To acquire English language skills for academic studies.
- (3) To acquire knowledge of multivariate methods in behavioral science.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明
2. 家族構造と子どもの読解力 (Park 2007)：内容理解
3. 家族構造と子どもの読解力 (Park 2007)：方法論的検討 (重回帰分析)
4. 家族構造と子どもの教育アスピレーション (Park 2008)：内容理解
5. 家族構造と子どもの教育アスピレーション (Park 2008)：方法論的検討 (ロジスティック回帰分析)
6. 離婚と社会移動 (Biblarz and Raftery 1993)：内容理解
7. 離婚と社会移動 (Biblarz and Raftery 1993)：方法論的検討 (ログリニアモデル)
8. 家族構造と子育てスタイル (Chan and Koo 2011)：内容理解
9. 家族構造と子育てスタイル (Chan and Koo 2011)：方法論的検討 (潜在クラスモデル)
10. 離婚と心理的健康 (Amato and Sobolewski 2001)：内容理解
11. 離婚と心理的健康 (Amato and Sobolewski 2001)：方法論的検討 (構造方程式モデリング)
12. 家族構造と婚姻前出産 (Wu and Martinson 1993)：内容理解
13. 家族構造と婚姻前出産 (Wu and Martinson 1993)：方法論的検討 (イベントストーリー分析)
14. 家族政策、家族構造と子どもの成績 (Pong, et al. 2003)：内容理解
15. 家族政策、家族構造と子どもの成績 (Pong, et al. 2003)：方法論的検討 (マルチレベル分析)

8. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]

9. 教科書および参考書：

American Sociological Review, Journal of Marriage and Family, Demographic Research などの学術誌に掲載された論文で指定されたもの (「授業内容の詳細」欄に掲載) を、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。

10. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 専門社会調査士資格認定標準科目 I に対応。
- (2) 受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：計量行動科学研究演習Ⅱ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：2学期， 単位数：2

担当教員：木村 邦博（教授）

講義コード：LM22208， 科目ナンバリング：LIH-OS0608J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：計量行動科学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：

社会調査法への認知科学的アプローチ

2. Course Title (授業題目)：

Cognitive Approaches to Survey Methodology

3. 授業の目的と概要：

1980年代頃から、認知科学・認知心理学の方法や成果をもとに社会調査法に反省・検討を加えようという試みが行われるようになってきた。そのひとつの流れが、CASM (Cognitive Aspects of Survey Methodology) と呼ばれる研究プロジェクトである。このプロジェクトの研究動向 (先駆的・古典的研究も含む) についてレビューするとともに、そこでの知見を社会調査の現場 (企画・準備・実査から分析や成果報告に至るまでのプロセス) に実践的に生かす道を探求する。あわせて、センシティブな質問などを用いる場合の倫理的問題とそれへの対処法などについても考える。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)

Since 1980s, a research project titled "Cognitive Aspects of Survey Methodology," which aims to improve survey methods from the perspective of cognitive science, has accumulated studies on survey processes. This seminar provides an opportunity for students to read important articles (including pioneering or classical ones) in this project, explore its application to future surveys, and establish their ideas on ethical problems in surveys (especially those involving sensitive topics).

5. 学習の到達目標：

認知科学等の知見を社会調査の企画・準備・実査・分析・報告・倫理向上に活かす。

6. Learning Goals (学修の到達目標)

Students will learn how to apply findings in cognitive science to designing, preparing, and conducting their own surveys, as well as analyzing the survey data and reporting the results.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. 授業計画の説明
2. 世帯調査におけるカバレージ誤差 (Martin 1999)
3. コーディングのエラー (Collins and Courtenay 1985)
4. 事実質問における不明確な言葉 (Fowler 1992)
5. 出来事の想起 (Neter, et al. 1964)
6. 事実質問における回答選択肢 (Schwarz, et al. 1985)
7. センシティブな質問 (Tourangeau, et al. 1996)
8. 無回答・回答拒否 (Groves, et al. 2006)
9. 質問順序効果 (Schwarz, et al. 1991)
10. 評定尺度におけるラベルの影響 (O' Muircheartaigh, et al. 1995)
11. 評定尺度における方向性と強度 (Krosnick and Berent 1993)
12. プリテストの新手法 (Oksenberg, et al. 1991)
13. 調査員効果 (Schuman and Converse 1971)
14. 調査員変動 (Kish 1962)
15. インフォームドコンセントの方法 (Singer 1978)

8. 成績評価方法：

期末レポート [50%]、平常点 (授業時間内での報告・質問の内容や報告・レポートに至るまでの過程) [50%]

9. 教科書および参考書：

Public Opinion Quarterly, Journal of the American Statistical Association, Journal of Official Statistics, American Sociological Review などの学術誌に掲載された論文で指定されたものを、参加者各自が「電子ジャーナル」からダウンロードする。

10. 授業時間外学習：

- (1) 演習の時間に取り上げる文献を事前に読んで検討しておく。
- (2) 担当の文献に関する報告の準備をする。
- (3) 関連文献を検索して読み、あわせて検討する。

11. 実務・実践的授業/Practical business：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

- (1) 専門社会調査士資格認定標準科目Hに対応。
- (2) 受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

科目名：計量行動科学研究演習Ⅲ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：1学期， 単位数：2

担当教員：小川 和孝（准教授）

講義コード：LM15208， 科目ナンバリング：LIH-OS0609J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：計量行動科学研究演習Ⅲ】

1. 授業題目：

偏見の社会学

2. Course Title (授業題目)：

Sociology of Prejudice

3. 授業の目的と概要：

目的：偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

概要：偏見の形成と維持のメカニズムのついての最新の知見を、文献講読を通じて学ぶとともに、今後の研究可能性について議論する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

This course offers an opportunity to learn basic theory of prejudice and new findings in recent studies. It aims to help students explore in what mechanism prejudice has been formed and maintained.

5. 学習の到達目標：

個々の理論の関連を理解し、偏見に関する一連の研究を体系的に説明できるようになる。

偏見の生じるメカニズムについて、理論にもとづいて説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students are expected to become able to explain mechanisms through which prejudice has been formed and maintained based on theories.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、必要に応じて解説を行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。また後半の回ではいくつかのグループに分かれ、偏見や差別に関する具体的なトピックを設定して発表を行ってもらう。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 偏見・差別・スティグマ
3. 社会的カテゴリ化・ステレオタイプ
4. 権威主義的パーソナリティ
5. 接触理論
6. 偏見のもたらす帰結・効果
7. 統計的差別
8. 偏見とメディア
9. 偏見・差別に関する法制
10. 人種・民族に関する偏見
11. 性別に関する偏見
12. 障害に関する偏見
13. グループ発表
14. グループ発表
15. 総括討論

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、ディスカッションへの参加 (20%)、グループ発表 (20%)、最終レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：

指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、偏見によって生じる諸問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。後半のグループ発表では、授業時間外に他の履修者と共同して準備を行うことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

科目名：計量行動科学研究演習Ⅳ／ Quantitative Behavioral Science(Advanced Seminar)Ⅳ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

セメスター：2学期， 単位数：2

担当教員：小川 和孝（准教授）

講義コード：LM25208， 科目ナンバリング：LIH-OS0610J， 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：計量行動科学研究演習Ⅳ】

1. 授業題目：

移動と階層

2. Course Title (授業題目)：

International Mobility and Social Stratification

3. 授業の目的と概要：

目的：出入国管理法の改正に向けた動きが活発化し、さらなる外国人労働者の受け入れが行われつつある。しかし、外国人労働者の受け入れに関しては、制度整備が十分に行われていないことが指摘されている。この授業では外国人留学生の就職／就労をとりあげ、そこでの問題の実態を説明できるようになることを目的としている。

概要：外国人留学生の定着率が高まらないのはなぜか。就労／就職に関わる障壁を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)

The aim of this course is to understand current employment conditions of skilled international migrants (especially international students) and their difficulties.

5. 学習の到達目標：

外国人留学生の就職／就労に関する問題の実態を説明できるようになる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)

Students are expected to become able to explain what difficulties skilled migrants in Japan face.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

事前に文献を講読し、予習課題に取り組んだ上で授業に出席することが求められる。授業では初めに予習課題の理解を確認し、必要に応じて解説を行う。授業の後半では関連する論点・事例を取り上げてディスカッションを行う。また後半の回ではいくつかのグループに分かれ、留学生・外国人労働者の就労に関する具体的なトピックを設定して発表を行ってもらう。

【各回の構成】

1. イントロダクション
2. 社会学における社会移動・地位達成
3. グローバリゼーションと移民
4. 移民と差別・不平等 (1)
5. 移民と差別・不平等 (2)
6. 日本社会における外国人労働の歴史的展開 (1)
7. 日本社会における外国人労働の歴史的展開 (2)
8. 日本社会における外国人留学生
9. 日本的雇用慣行と外国人労働 (1)
10. 日本的雇用慣行と外国人労働 (2)
11. 外国人労働をめぐる近年の法制と課題 (1)
12. 外国人労働をめぐる近年の法制と課題 (2)
13. グループ発表
14. グループ発表
15. 総括討論

8. 成績評価方法：

予習課題への取り組み (30%)、ディスカッションへの参加 (20%)、グループ発表 (20%)、最終レポート (30%)

9. 教科書および参考書：

初回の授業で指定する。

10. 授業時間外学習：

指定文献を事前に読み、予習課題に取り組むことが要求される。予習課題においては文献の理解のみならず、外国人労働に関する問題について、ニュースなどから情報を集めることも求められる場合がある。後半のグループ発表では、授業時間外に他の履修者と共同して準備を行うことが求められる。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness：

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business

12. その他：

